

2013年(平成25)4月

カルメル
霊性センターニュース



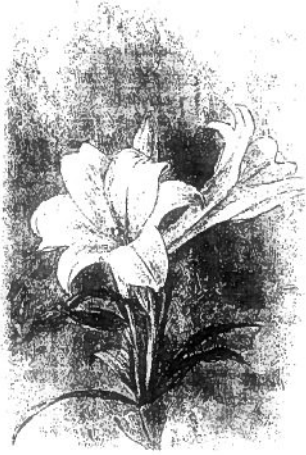
2013年4月

286号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
諸所の企画案内	33
年間購読(郵送)のご案内	44
編集後記	45

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一巻

第二十五章 生活を熱心に改める

7 冷淡な修道者の滅び

ほんとうに熱心な修道者は、命じられたことをすべて快く受け入れ、遂行する。それに反して、義務を怠る冷淡な修道者は、苦しみに苦しみを重ね、八方から悩みを与えられる。霊的な慰めをもたず、また外部の慰めを受けることも禁じられているからである。規律を守らない修道者は、非常に危険な淵に立っている。楽で安易なことだけを求める人は、いつも苦しみの生活を送るであろう。何もかも、その人の気に入らないからである。

8 怠惰に打ち勝つ

厳しい規律のもとに修道生活を営んでいる多くの修道者は、どうしているであろうか？外出することもめったにない、世俗を離れて潜心のうちに生きている。粗食に甘んじ、粗末な服をつけ、一心に働き、ほとんどいつも沈黙を守り、長い黙想をおこない、朝は早く起き、長く祈り、しばしば読書し、すべての規律をよく守っている。観想会やシトー会、そのほかの修道会の修道者、修道女を見なさい。彼らが主に賛美の歌をささげている時に、あなたがその聖なる務めを怠るのは、なんと恥ずべきことであろう。

信仰年に

神と親しく生きるために - 4 -

主は

仰せのとおり

死者のうちから

復活された。

アレルヤ！



ご復活おめでとうございます。

大自然は厳しい冬の後、それぞれの「いのち」の賛歌を創造主にうたいあげています。わたしたちも復活された主への信仰を、信仰年を祝う今年の復活祭にさらに深めてゆきたいものです。

復活したキリストへの信仰は、わたしたちの人生を造り変えます。信仰はわたしたちの内でも働いて、復活を継続させます。

キリストの復活は、

過ぎゆく時間に決して屈服することのないいのち、すなわち、神の永遠性に満たされたいのちに到達することです。

イエスの復活によって、人間の新たな状態が始まります。

この新しい状態が、わたしたちの日々の歩みを照らし、人類全体に質的に異なる新たな未来を開くのです。

～ 教皇ベネディクト16世『霊的講話集』より ～

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

インドネシア紀行〈8〉

くのり
九里 彰

デンパサールには、バリ島への観光客が多い。日本からの直行便(往復)も関西、成田、羽田と三か所から出ている。当然、日本人観光客も大勢いるが、おそらく地理的に近いオーストラリアからの観光客が一番多いのではないだろうか。ちょうど南半球は冬なので、物価も安い暖かなインドネシアで休暇を過ごしているという感じである。

6年前(2006年?)にもインドネシアで会議があり、その時は、ジャワ島のジョグジャカルタに赴いた。その時は、自動車で交差点に来ると、バイクに囲まれた。今回は、立ち寄りなかつたので比較できないが、フローレス島でも自動車は結構走っていたし、インドネシア全体(東南アジア全体?)が高度経済成長期を迎えているように思われた。デンパサールの空港自体が工事中で大きく変わりつつある。日本企業がたくさん入り込んでいて、デンパサールでは、日本の大手コンビニ2社が、あちこちに店を出していた。

生活が豊かになると、心は貧しくなるのか、宗教心は衰える。いわゆる欧米先進国では、心から神を信じ、キリストに従おうとするキリスト者は、急激に少数派になりつつあるようである。キリスト教信仰が欧米社会の前提となっていたのは、過去のことになりつつあると、前教皇ベネディクト16世も『信仰の門』で警鐘を鳴らしている。修道召命が激減し、修道者は天然記念物化しつつある。

東アジア・オセアニア地区のカルメル会を見ると、日本やオーストラリアも例外ではなく、衰退の一途をたどっている。その中で、韓国、フィリピン、インドネシア、台湾・シンガポールの管区は、順調に成長(台湾・シンガポールには召命はなく、近隣の国々からの召命)。中でもインドネシアの召命は非常に多く、活気に満ちている。今回の訪問でよく分かったことは、町や村ぐるみの信仰であり、生活と信仰が一つとなっていることであった。欧米では、近世以降、政教分離の原則が遂行され、信仰は個人の心の問題とされ、ついに今世紀に至り、個人の心の世界からも消えつつあるといったところであろうか。(〈インドネシア紀行〉は終了)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (68)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

がらくたは放っておきましょう

ヨハネ修士の列福や列聖の裁判は、どのようにまたどれほど彼が神について語ったかという、彼の言葉に関する賛辞で満ちています。実際、彼は会話において他の話題を持っていなかったのです。直接的に、あるいは間接的に、神はそこにおられました。

それゆえ、会話が何らかの動機で頓挫したり、沈んでしまうと、十字架のヨハネは、そっと打開策を取るのです。

セゴビアの院長であったご託身のマリアは、そのような場合に、彼が彼女に、「そのようながらくたは放っておいて、神について話しましょう」と言ったことを覚えています。

それは、セゴビアでのことですが、他の場所や機会には、少し厳かなしぐさをもって、背伸びが大きくなるかのようにして、こう言うのが常でした。「永遠の命へと！高く上りましょう」。「高く上りましょう！ここから永遠の命へと。まことの中心である神の内に靈魂を憩わせ、すべての人が自分の考えを神にゆだねてゆくように」。

ただ十字架だけが、すばらしいもの

心からあふれることを、人は口にするものです。十字架のヨハネの場合にも、キリストに魅せられた彼は、心からあふれることを口にし、キリストの受難、死、復活から成る過越の神秘を思いめぐらしながら、筆を手にとったのです。修道名についている「十字架」を、母イエズスのテレジアがその名をつけたがゆえに、特に愛しました。十字架を担うすべを学ぶように、また地上からの慰めに飢えたり、それを求めたりしないように勧めました。彼の信奉者の一人に、しばしばこう言いました。「娘よ、ただ十字架だけを愛するように、それはすばらしいものなのだから」。けれども、「ただ十字架だけ」とは、キリストのいない裸の十字架の木のことではなく、純粹に人間的な慰めのない木という意味です。ある手紙の中で、あの勧告を与えています。「…また十字架なしのキリストを求めないように」と。これを、私たちは補足しなければなりません。「…またキリストなしの十字架を求めないように」と。またあの金言もあります。「キリストの十字架を求めない者は、キリストの栄光を求めない」と。

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」(ヨハネ 20, 27)。

十年前勃発したイラク戦争の結末は、当時の北朝鮮の金正日に「アメリカの言いなりにならないための発言力を保持するには、軍事力を増強し、核兵器を所有しなければ、活路はない」との結論に至らせた、とされています。金正恩、その息子をも、核開発に駆り立てているのは、同じ思い出なのでしょう。これは、別に、彼らだけに限ったことではありません。アメリカを原子爆弾開発に向けたのは、ナチスが先に原爆を完成させたら、ヒトラーがそれを先に手に入れたらどうなるかと言う恐怖からだったと言われています。自己の権利、正当性を主張する、戦争、紛争の当事者双方の発想を操っているものは、恐怖心だと思います。ここからは、相互の不信感、猜疑心が見えてきます。疑心暗鬼が、人間の知恵に見せる世界は、どこにでも自分に危害を加え、抹殺しようと暗躍する悪魔的悪意が潜んでいる世界なのです。そこには、相互の信頼感、友愛、思いやり、慈しみに場を与えることは、愚かなこと、知恵に反する行為であるかのようです。しかし、パウロは書いています、「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです」(1コリント 1, 25)と。神の愚かさの極致は、イエスの十字架上の死に他なりません。しかし、神の強さは、イエスにおいて、その十字架をも、愛と赦しのしるしに変えて、新しい生命、新しい生き方への飛躍台にしてしまうのです。

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」とのトマスに言われた、復活したイエスの言葉は、何を意味しているのでしょうか。十字架の上で死んだイエスが復活したことを信じなさい。確かにそうです。しかし、これに留まりません。イエスが告げられ、実行された福音、「良い訪れ、愛と赦しの福音、友のために命を捨てる愛」は、イエスを十字架の上で殺していった人たちの価値観、「結局、この世で自分の欲望を実現するには、権力、経済力、軍事力、なんでも権力を掌握することである」との判断の前に、永久に負けたではありません。抹殺され、葬り去られたと見える、そのとき、不死鳥のように新しい力を帯びて立ち上がってくる。「愛」は、死よりも力強い、これを「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」と言われているのです。この信じる者が見る世界は、疑心暗鬼が人間の知恵に見せる世界とは、まったく異なったものでしょう。しかし、そこで、見えてくる道が、すべての人類を幸福に導く道なのです。

ルカ渡辺幹夫

復活節第3主日

みことばのひびき

「来て、食事をしなさい。」とイエスは彼らに言われた。

(ヨハネ 21:1-19)

本日の福音は、復活されたイエスが弟子たちにお現われになった話を続けます。弟子たちは復活された後のイエスを見ましたし、いっしょに食事をしました、またイエスの教えを聞きました。本日の福音では弟子たちがエルサレムを去り、生まれ故郷のガリラヤに戻り、漁師としての元の生活を再び始めたことを暗示しています。

ここで私たちはイエスの心づかいを見ます。イエスは弟子たちを岸辺で迎えます。イエスは弟子たちが一晩中懸命に働き、疲れ果てていることをご存じでした。弟子たちが岸に上がって来ると、見なれない人（主）が彼らのためにパンと焼いた魚の食事を準備していたことに気づきます。イエスは弟子たちにとれたばかりの魚を持ってきて朝食をつくるように言われます。彼らは主であることを知り、いっしょに食事をします。食事は私たち皆が与るご聖体を象徴しています。弟子たちは神の御言葉であるイエスの現存のうちに在り、イエスのことばを聞いています。イエスはいっしょに来て食べるように彼らを呼び、一体感を分かち合います。イエスは

パンを割り、魚を分かち与え、「みんな、取っていっしょに食べなさい」と言われます。弟子たちとイエスは自分たちが持っているものを分かち合い、一致と共同体のうちに食べています。このような単純な場面は私たちに教会の美しい姿を示しています。弟子たちはパンを割ることで分かち合い、いっしょに食事をするという教訓を得ます。

福音の第二の部分で、イエスはペトロに三回「ヨハネの子シモン、あなたは私を愛しているか」と質問されます。ペトロは三回イエスへの忠誠を断言し、死んでもイエスに仕えることを約束します。その度にイエスはペトロに羊の世話をする使命をお与えになります。ペトロは指導者となる召し出しを与えられ、彼の使命を続けるように求められます。イエスがペトロから三回愛の表明を求められたのは、ご受難に先だってペトロが三回主を拒んだことへの応答です。疑いなくペトロは過去三回、自分が主イエスを知らないと言ったことを思い出させられたと分りました。ペトロは三度目についに言います。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることをあなたは知っておられます。」ペトロの心の中に起きた変化と転向を知り、イエスはペトロの言葉を受け入れてご自分の權威と首位権をペトロに与えます。イエスは新たに築かれた教会の羊飼いとなることをペトロに委ねます。シモン・ペトロは新しい羊飼いであり、彼はキリストの代理となります。彼は神の民であるキリスト教徒の群れを保護し、牧草地を与えます。

(Sr. Paulina)

「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う」(ヨハネ 10, 27)

復活の後に、イエスはペトロに三度も言われました。「『ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。』ペトロは、イエスが三度も、『わたしを愛しているか』と言われたので、悲しくなった。そして言った。『主よ、あなたが何もかもご存知です。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます』。ペトロは、イエスが自分の何を良く知っておられると告白するのでしょうか。イエスも、彼らを知っている、と言われていますが。イエス知っておられるわたしたちの現実、わたしたちがイエスを愛していることなのでしょうか。そうではない、と思うのです。イエスが知ってくださるわたしたち人間の姿は、第一に、どんなにはやる心があっても、自分の弱さからイエスを裏切ってしまう現実、自己愛の声に流されて罪に盲目的に従ってしまうわたしたちの弱さのすべてを、としましょう。そして、このような人間のために、イエスご自身が実行された御業、人間たちを罪の鎖から解放するために十字架の上になくなられるまでにされたイエスの御業、他ではない、わたしたち人間の中に実を結ぶことを目指したご自身の御業の広さ、高さ、深さを、もちろんイエスにご存知です。そして、この罪人の中に聖霊を送り、新しいものとされた心、愛する能力の創造、すべてを、イエスはすべて知っておられる。「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください。・・・御救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください」(詩篇 51, 12, 14)と詩篇 51 は歌っていますが、イエスが、「わたしは彼らを知っている」とは、これらのすべての次元を知っておられることではないのでしょうか。わたしたちは、これらのどれ一つも、本当の意味で知っている、頭の次元で理解しているのではなく、体験的に味わい、分かっている、とは言えないのでしょうか。

「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける」。これは、羊に自然的に備わっている能力ではなかったのです、わたしたちは、イエスの声よりも、罪の声に聞き従ってしまう弱さの中に生きています、しかし、先にわたしたちを愛し、「極みまで愛した」イエスの愛に信じ、自分を開くとき、この「イエスの声を聞き分ける」能力がわたしたちの内に流れ込んでくるのではないのでしょうか。「わたしは彼らに永遠の命を与える」。永遠の命とは、今日、イエスの声を聞き分けていく、この能力に生かされて行くことではないのでしょうか。 ルカ渡辺幹夫

復活節 第 5 主 日 (ヨハネ 13 ; 31—33a, 34—35)

あなたがたに新しい掟を与える：互いに愛し合いなさい

先週の福音は善き牧者であるイエスについて述べ、イエスの声に聴き従って行くことの大切さを伝えました。今日の福音は次の霊的段階に向かうものです；イエスのように互いに愛し合うこと。“わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。”

復活節の間、私たちは度々イエスの復活を思い起こします。復活祭は復活されたイエスがもたらされた新しいいのちのお祝いです。ヨハネは、父である神は世を無限の愛で愛しておられたので、世を救うために最愛の御子を送られたと言っています。しかし世はその神からの人に従わず、反抗して殺してしまいました。それでも父である神は、その偉大な愛の結果として、御子を復活させ世に戻してくださいました。これが主の復活です。神の愛の広がりです。愛は互いに相手の善を望むものです。愛が深まれば、今日の福音で説明されている愛情と奉仕の精神は自然に備わってきます。愛は人の精神と心と意志が一つになることです。愛は同情、支え、癒しであり、それは伝わっていくものであり、役に立つ、きもちのよいものです。

“新しい”という言葉が今日の朗読で度々使われています。ヨハネの黙示は、“新しい”天と“新しい”地と“新しい”エルサレムについて述べています。イエスは福音の中で“新しい”掟について語っておられます。聖書が述べる“新しいいのち”はまた“回心”、ギリシャ語でメタノイアとも言われます。回心は人の根本的な生き方を、人生において何を一番大切にして生きるかという生き方の優先順位を変えることです。回心は人の、神と他人に対する新しい態度、新しい価値、新しい基準です。回心はいつでもどんな時にも与えられるキリストの新しいいのちです。回心は人の、個人的に、神への愛のために身を捧げることです。

今日イエスは、イエスの愛、イエスの仕える愛へと招いてくださいます。天の御父のように公平に愛し、イエスが愛されたように愛することへと皆を招いてくださいます。それは互いに思いあう愛情に満たされて愛することです。キリストの弟子は主に共同体を成し、常に助け合って生活していました。ですからイエスは新しい掟として、イエスが愛されたように互いに愛し合うようお命じになります。神がお命じになる最も大切な掟は、全心全霊をもって神を愛すること。また隣人を自分のように愛することです。イエスはこれに一つの新しい要素を追加なさいました。それは私たちがキリストの真の弟子であるか否かを見極めるための試みにもなります。イエスと同じ様に他人を愛することが出来るかということです。イエスの愛は私たちのためにご自分のいのちを生贖として差し出してくださる愛です。イエスの十字架はそれ自体神の栄光の啓示であり、またイエスに従って行く者に、神のいのちを分け与えてくださるイエスに向かう道の啓示です。私たちも愛と献身と奉仕の心をもっていつも主とともにいられますように！恵みを願いましょう。

(Sr. Paulina)

上野毛教会で行われている講座「カルメルの靈性に親しむ」で、信仰年に関連して「カルメルにおいて『新しい福音宣教』を考える」と題された講話を伺いました。

人類の新しい時代の種々変革のあり様を見つめ、今日の深刻な諸問題に目を向けながら、今私たちは自らの信仰を見直さなければならないこと、そして新たな福音宣教即ちキリストを生きることを、カルメルにおいて考えるという真摯な熱意に満ちたお話でした。

新しい福音宣教に取り組むためのカルメルの経験として「・・・から出る」ということを主旨とし、古い世界から抜け出て未知の土地へ行くためには、新しい未知の開拓されていない道を進んで行かねばならないことを、特にイエズスの聖テレジアの生き方を尋ね、聖テレジアの宣教の原点とされる地獄の幻視、神不在の痛みを基とする宣教の深さを確かめ、また、サマリアの女のように魂の究極の渴きを満たす愛するお方と出会うことの真の意味等々、聴く側の胸の内も自ずと熱く高まってくるようでした。

結語として示された「自叙伝32・9」のお話は、私を苦しいほどに圧倒しました。聖テレジアは会則を守ることと愛することを同義として、心すべきは主が呼びくださった修道生活の召命の義務に応えることなのだと云います。問われることに注意をもって忠実に応えて、置かれた自分の場でイエズスを生きることと講話は続きました。そして最後に神父さまはこんなふうに言われたのです。「カルメルの靈性とは、ひとつの場に張りついてキリストを生きる、主婦の靈性です」。

その瞬間、私の内部に音をたてて動いたものがありました。どう云うのでしょうか。あたかも二つの極と極が互いに引き合ってピタリとくっついた感覚でしょうか。

思い返してみると、長い長い年月を一途に激しく導かれて生きてきた内面世界に、もしかしたら自分でもそれとはっきりは気づかずとも、どこかに、微かに、不安気に、ためらうものを私の魂はもっていたのだと思います。それが瞬時に払拭されて晴れやかさの内に招き入れられたかの感じでした。

私の世界は温められ、その温もりは身の丈いっぱいにも明るく満ちました。そうした中で、一冊の本のことが心の深みから浮かび上がるようにして思い出されたのです。

リンドバーグ夫人著「海からの贈物」。

古い古い小さな本です。ずいぶん昔、受洗の頃に読んで深く感銘を受け、その後再読したのですが、それから30年余り手にとることはありませんでした。本箱から探し出してみると、頁は茶色に変色しあらためて驚く活字の小ささでした。

私は「主婦の靈性」に促されて頁を開きました。

リンドバーグ夫人が一人の女性として、一人の主婦として、日常を離れた海辺で黙想の日々を過ごし、その深い祈りと思索が浜に打ちあげられるいくつかの貝に托して格調高く綴られます。その内容は、「忍耐と信仰をもって海からの贈物を待ちながら、浜辺同様に空虚になって横たわって」得られたものであり、無意識が「浜辺に砕ける波と共に漂ったり戯れたり静かに巻き上がったりし始めて」得たものであるのです。「自分の内部に注意を向ける時間」の中で、生きることの根源的な核ともいうべきものを全身で見据え、そこから人間関係、世界平和、文明社会などが考えられていくのですが、久しぶりに読み返し深い共感を味わいました。

実はこの本の中でリンドバーグ夫人もまた結語として「主婦の靈性」を述べるのです。今、私は深い感謝の内にこれを聖テレジア「自叙伝32・9」と神父さまの講話としっかりと思い合わせ、結び合わせて一部分ですがここに引用したいと思いました。

「ここと今と個人というものは、正に聖者と芸術家と詩人と、それからこれは大昔から、女が特に関心をよせていたものなのである。女は家庭という一つの狭い範囲で、その家庭をなしている一人ひとりに認められる独自のものを、また、今という時間の自然な姿を、また、ここという場所の掛け替えのなさを、決して忘れたことがない。そしてこれが、生活の基本であり、そしてまた、もっと大きな多数とか、未来とか、世界とかいうものを作っている要素なのである。我々はそれを無視することはできても、それなしではすまされない。こういう要素は、川になって流れる水の滴であり、生命そのものの本質であって」……。

いのちの言葉 4月

兄弟たち、互いに不平を言ってはいけません。

(ヤコブの手紙 5・9)

今月のいのちの言葉をよく理解するためには、この言葉が語られた状況を考慮する必要があるでしょう。使徒ヤコブが手紙を送ったキリスト者共同体には、さまざまな支障が生じており、スキャンダルや差別、身勝手に財産を使うこと、労働者の酷使、行いの伴わない口先だけの信仰などが見られました。そしてそこから、お互いへの恨みや不和が起こり、共同体全体に困惑が生じていました。

兄弟たち、互いに不平を言ってはいけません。

使徒たちの時代にも、今日私たちの共同体で見られるような事柄が、すでに存在していたのがわかります。私たちが信仰を生きる上で最も大きな困難は、外部つまり世の中から来るものよりも、「内部」から来る方が多い、ということです。内輪で起こる色々な状況が明らかになったり、キリスト教の教えから外れている兄弟の行動が見られたりすると、そこからは不安や不信任感、落胆などが生じてきます。

兄弟たち、互いに不平を言ってはいけません。

しかし、こうした矛盾や対立の根が、兄弟の信仰の未熟さや、神と隣人への不完全な愛にあるとすれば、キリスト者は苛立ったり、強硬な態度を取ったりせず、イエスが教えてくださった姿勢で応えるべきでしょう。イエスは、忍耐をもって待つこと、理解し、憐れみを抱くことを求めておられます。こうした姿勢は、「毒麦のたとえ」(マタイ 13・24-30、36-43)で説明されているように、私たちの内に蒔かれた良い種が芽を出し育っていくのを助けるものです。

兄弟たち、互いに不平を言ってはいけません。

では、今月のいのちの言葉をどのように生きてらよいでしょうか。このみ言葉は、私たちがキリスト者として生きる時に直面する困難について考えさせるものです。私たちも様々な共同体(家庭や教会、団体や職場、市民グループ)に属していますが、うまく行っていないことが多々あるでしょう。性格やものの見方、やり方の違いが明らかになる時、また相手の言葉と行いが一致しない時などは、私たちは苦しみ、相手を受け入れるのが難しいでしょう。

ですから、今月のいのちの言葉をよく生きる機会は、たくさんあります。悪口を言ったり、非難したりしたくなる誘惑があるかもしれませんが、その時こそ、忍耐と理解を示すようにしましょう。兄弟姉妹として、できる範囲で相手の誤りを正してあげましょう。そして何よりも、私たち自身がキリスト者として証しするよう努めましょう。もし相手に愛と熱意が足りないとするなら、それに対して私たちは、一層大きな愛と熱意で答えるようにしましょう。

キアラ・ルービック

* 今月の言葉は1989年12月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

み言葉を生きて

お友達の中に、よく私にあれをしろ、これをしろと命令する子がいます。でもおこらないでその子がローラースケートのくつをはくのを手伝ってあげました。心の中で裁かなかったので、みんな仲良く楽しく遊びました。

●お知らせ

家庭的な喜びの雰囲気の中で

関東： いのちの言葉の集い

とき : 4月14日(日)13時30分から

ところ : カトリック藤沢教会204号室にて

連絡先

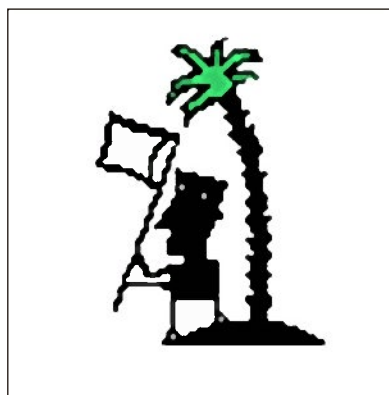
フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（164）



孤独において神によりすごること

私たちが神と二人だけになるために孤独に入ってゆくとき、すぐに私たちは自分がどれほど依存的になっているかに気づきます。毎日の生活にあるたくさんの方の気晴らしがなければ、私たちはすぐに不安や緊張を感じるのです。だれも私たちに語りかけず、訪ねてくれず、助けを必要としない場合、自分を取るに足りない者と感じ始めます。そして私たちは、自分が役に立つ者か、価値ある者か、意味のある者かと考え始めるのです。私たちの傾向は、この恐ろしい孤独からすばやく離れ去り、私たちが「何者か」とであると安心できるように再び忙しく働き始めます。けれども、それは誘惑です。なぜなら、私たちが何者かにするのは、私たちに對する他の人々の反応ではなく、私たちに對する神の永遠の愛だからです。

眞実の自分自身を求めるには、私たちは孤独の中で、私たちがあるところの者としてくださる神によりすがらねばなりません。

(0816)

二種類の孤独

靈的生活において、二種類の孤独を区別しなければなりません。第一の孤独においては、私たちは神との接触の外にあり、自分に帰属や親密さやふるさとの感覚を与えてくれる誰か、あるいは何かを、不安げに探し求めている自分を体験します。第二の孤独は、神との親しさから来るもので、それは私たちの感情や考えが捉えるよりずっと深く大きなものです。

私たちは、これらの二種類の孤独を、二つの形の盲目として考えてもよいかもしれません。最初の盲目は、光の欠如から来るのに対し、第二の盲目は、光の過剰から来ます。最初の孤独は、信仰と希望をもって脱却しようとしなければなりません。第二の孤独は、これに対し、すすんで愛のうちに受け入れようとしなければなりません。

(0730)

(九里 彰訳)

*****絵本のための小さなおはなし*****

「三日月のおぼろ月の絵のお話」

三日月のお月さまは寝ぼけています。

「ああーあ、もうすぐ新月、お休みの日がある。毎日毎日、ぼんやりしちゃってあたしてどうして太陽さんみたいに輝いたりできないのかしら。あんなにぴかぴかしたいなあ。太陽さんかっこいい。せめて休みの日くらいは暗くしてのんびりぐっすり寝たいなあ」
心の優しい英雄オリオン座の、七つの星のチームは声を合唱して歌いました。星のお仕事は歌うことです。

「お月さま、あなたもきっといつか必ず、太陽のように輝ける日があるよ。だってみんなが太陽と一緒に生まれたんだもの。遅い早いはあるけど、いつか必ず、みんなが太陽のように輝く日がある。絶対大丈夫！ 心配ない」

「だいじょうぶ」というお友達の言葉にはとても力がありますね。お月さまは安心して次の新月の日、よく眠りました。



跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介いたします。



<< Communications (時事通信) >>

カルメル会総長からの新教皇様への手紙

跣足カルメル修道会 ザベリオ・カニストラ総長

ローマイタリア発 (2013年3月14日)

教皇様

私たち跣足カルメル修道会の修道士、修道女、在世会員の全家族は、心からの歓迎のご挨拶を申し上げます。カルメルの私たちの父や母なる方々から伝承された単純さをもって、私たちは教皇様に心の扉を開きます。教皇陛下、どうぞ私たち、キリストにおいてあなたの息子・娘である私たちに目をとめてください。

私たちの母聖テレジアは、信仰の賜物を、教会との愛の交わりのうちに、キリストの代理者である教皇様への従順の精神をもって、神の国の奉仕のために生涯を献げて生きるよう、私たちに教えました。そのように私たちは前任者の教皇様方にお仕えして参りましたし、これからは同じように教皇様にお仕えする所存です。私たちのまなざしをキリストに向けさせるために大きな助けとなってくださった前任者の教皇ベネディクト16世に深く感謝しながら、私たちは、静かな信頼と期待をこめた祈りと高揚する喜びのうちに、新しい教皇様の選挙を見守らせていただきました。毎日主に、「ペトロの船を導くために、あなたがお選びになった方を、恵みのこの時に、私たちにお示してください」とお願い致しました。そして今、教皇様が選ばれました。私たちは、教皇様を、神が私たちに遣わしてくださった方として歓迎致します。

教皇様が「はい」とお応えくださいましたことに、心から感謝申し上げます。困難なお仕事待ち受けているにも関わらず、お引き受けになったのは決して容易ではなかったことと拝察致します。しかし私たちは、教皇様の表情に、主の道具としてご自分を献げられた者の、自分の口や決定や行動を通して主が自由に働かれるのを許した者の、真の謙遜さを見せていただきました。陛下の内に、私たちは信徒のために絶えず驚きをもたらす聖霊の働きとその刷新する力を再認識させられたことを、神様に感謝申し上げます。

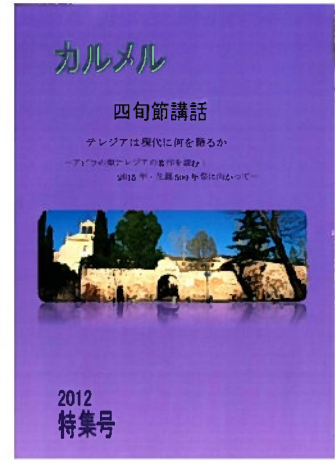
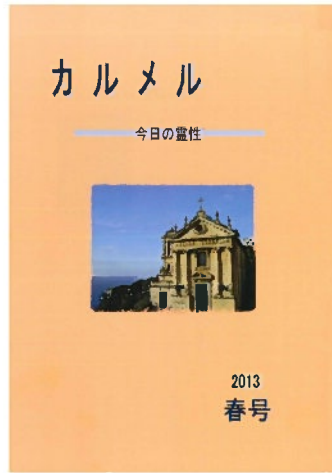
教皇様、私たちは教皇様の友にさせていただきたいという畏れ多い願いをもっております。私たちカルメルの家族は、聖下の新しいベタニアのようにならせていただき、そこでお仕事の疲れをとられ、一緒に私たちが最も愛するお方、私たちの友でいてくださるイエス・キリスト、キリストの教会、そして今の世で最も貧しいお方についてお話しさせていただければと願っています。教皇様が選ばれたお名前は、そのようにする勇気をくださいます。その名前の方は、キリストの足跡に従い、兄弟たちの中で常に最も小さな者であるよう望んだからです。

教皇様が全世界に福音を述べ伝える旅をなさる時、私たちも教皇様と共に宣教師となるでしょう。教皇様が勇気と力をもって神のみ国の平和と正義を宣言されるとき、私たちも一緒に働きます。十字架が現れるときは、教皇様の傍らで一緒にそれを抱きしめます。そして、教皇様がイエスの聖心と語るため祈りに退かれる時、私たちもその傍らにおります。

私たちは、教皇様の教皇位を“カルメルの花、実り豊かな葡萄の木、天の輝き、乙女なる御母、慈愛深き御母、海の星”である聖マリアのご保護におゆだね致します。教皇様の上に神様の祝福を謹んでお祈り申し上げます。
聖下の、跣足カルメル会の息子たち、娘たちより



「カルメル」
今日の靈性・春号
特集号



2013 春 No.348

カルメル 2012 特集号

「テレジアは現代に何を語るか」

砂漠の修道院に入る (4)	ヤコブ神父 郵便だよー!	修道院生活 春夏秋冬 (7)	日本におけるエディット・シュタイン
奥村 一郎 49	森 みさ 43	高橋重幸 37	須沢かおり 31

二人の教会博士「イエスの聖テレサ」と「アウイラの聖ヨハネ」	アウイラの聖テレジアに見る「神の憐れみ」の体験 (1)
松田浩一 17	九里 彰 25

● 目次 ●	● 目次 ●
「今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰」	「完徳の道」に見る「祈りと生活」
信仰を生きたる (1)	アビラの聖テレジア(アウイラの聖テレサ)の「創立史」にみる信仰の歩み
——アビラの聖テレジアの信仰理解	神の住いであるわたしたち
九里 彰 3	——『靈魂の城』に聴きながら
信仰年に 聖テレサに導かれて (1)	三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、地上に苦しむキリストの神秘体との連帯
伊従信子 9	新井延和 2
九里 彰 3	九里 彰 10
松田浩一 17	松田浩一 22
九里 彰 25	中川博道 35
伊従信子 9	渡辺幹夫 46
九里 彰 3	

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛靈性センター ～ '14年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2013年 3月28日(木)～31日(日)《講話なし、各食事つき》

2. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

7月 4日	「弟子たちの不信仰と異邦人の信仰」	福田正範神父
11月14日	「カルメルにおける宣教」	中川博道神父
12月 5日	「神の愚かさ、宣教の愚かさ」	福田正範神父
2014年		
2月20日	「復活の主の第一の使信」	福田正範神父

3. 金曜黙想会 (毎回金曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年

4月19日	「カルメルの靈性・預言者聖エリア」	福田正範神父
6月 7日	「カルメルの靈性・ロスアンデスの聖テレサ」	古川利雅神父
10月 4日	「カルメルの靈性・ラウレンシオ修士」	古川利雅神父
2014年		
1月24日	「カルメルの靈性・聖母マリア」	福田正範神父

4. 奉獻生活者の為の黙想会

2013年

7月29日(月)18時～	8月 7日(水)	九里彰神父
8月12日(月)18時～	8月21日(水)	福田正範神父
10月 7日(月)18時～	10月12日(土)	福田正範神父
12月27日(金)18時～	2014年1月5日(日)	古川利雅神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

4月27日(土)15時～	29日(月・休)16時
11月 2日(土)15時～	4日(月・振休)16時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

9月21日(土)15時～23日(月・休)16時

7. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2013年

5月24日(金)20時～26日(日)16時

11月 8日(金)20時～10日(日)16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会

2013年度年間テーマ《カルメルの霊性》

「カルメルの霊性・預言者聖エリア」

日時： 2013年4月19日（金） 10時～16時

指導： 福田 正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・*黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

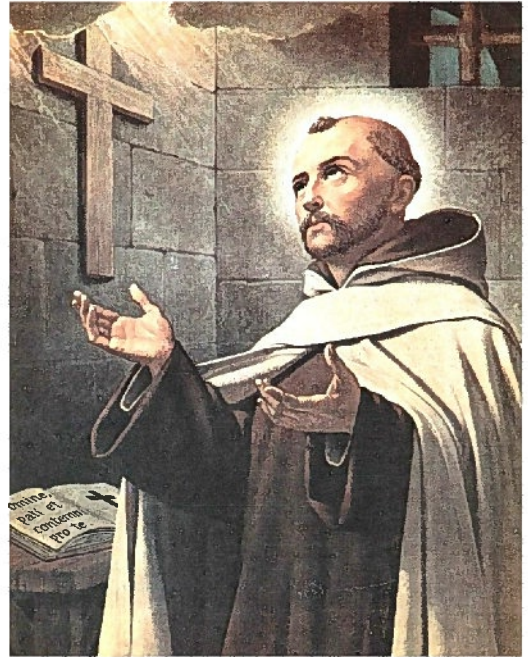


カルメル青年黙想会

“信仰の師” 十字架の聖ヨハネ

十字架の聖ヨハネは、教会博士の中でも神秘博士と呼ばれ、信仰を特に強調していることから、前教皇、福者ヨハネ・パウロ2世は十字架の聖ヨハネのことを“信仰の師”と表現し、その教えについて次のように語りました。「信仰の道において彼の教説は、すべてのキリスト信者にとって、不可欠な重要性を持っています。特に現代のように、新しい道を踏査しながらも、信仰の分野を危険と誘惑に曝している時代においてはなおさらのことです。」

信仰年を迎えている今、キリスト者にとって、日常生活の光、道しるべとしての「信仰を生きる」こと、キリストと共に生きる生活とはどういうことなのか、“信仰の師”である十字架の聖ヨハネに聴きながら共に学んでみませんか。



- 日時 : 4月27日(土) 15時 ~ 29日(月) 16時
- 場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
- 対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
- 定員 : 20名
- 費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
- 締切 : 4月20日(土) <必着>
- 指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。



158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
 カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
 電話 : 03(5706)7355
 FAX : 03(3704)1764
 E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp





講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:15~20:45≫

4月19日
5月17日
6月21日
7月19日
10月18日

キリスト教の基本を学ぶ

— 洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に —

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

1	4月12日	「聖書への親しみを持つことから」
2	4月26日	「天地創造の物語を読む」
3	5月10日	「わたしは誰？」
4	5月24日	「ひとりでは自分になれないわたし」
5	6月14日	「人間の問題性」(1)
6	6月28日	「人間の問題性」(2)
7	7月12日	「信仰を生きるとは？」
8	7月26日	「人間の問題性に関わる神」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

さらに 深く信じさせてください

2013年5月24日（金）20時～26日（日）15時

「信仰年」にあたり

日々の生活のなかで復活されたキリストと出会うために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

信仰は 神がわたしたちのために行われる

不思議なわざを
いつも新たに見出すことを可能にしてくれる

生涯の伴侶です。

信仰は 今の歴史の中に時のしるしを

見出そうと目を凝らしながら
わたしたち一人ひとりが
世における

復活した主の現存の生きたしるし

となるよう促します。

教皇ベネディクト十六世 『信仰の門』



- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、『いのりの道をゆく』聖母文庫、聖母の騎士、筆記用具、パジャマ
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158 - 0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- お申込み： F A X : 03-3704-1764 Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申込み下さい。

2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

5月25日(土)～26日(日) 三位一体の中で祈る	今泉健神父
7月13日(土)～14日(日) 信仰宣言に生きるカテキズム	松田浩一神父
9月7日(土)～8日(日) 牧者キリスト	今泉健神父
11月2日(土)～3日(日) 信仰と行い	九里彰神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

4月6日(土)	九里彰神父
6月1日(土)	九里彰神父
9月14日(土)	九里彰神父
11月30日(土)	九里彰神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

4月17日(水) 復活の信仰	九里彰神父
5月15日(水) 信仰年における聖母マリア	松田浩一神父
6月26日(水) 靈魂の城	今泉健神父
7月24日(水) 信仰の種	九里彰神父
8月4日(水) キリスト信者の靈的生活のカテキズム	松田浩一神父
9月16日(水) アビラの聖テレジアとイエス	今泉健神父
10月13日(水) キリスト教神秘を祝うカテキズム	松田浩一神父
12月18日(水) クリスマスを迎える心	今泉健神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月14日(土)～12月15日(日)	松田浩一神父
人間となった神の子への信仰	

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(月)～10月1日(火)	伊従信子師
-------------------	-------

【キリスト教靈的同伴】

(午後8時～午後3時) 限定10人

5月2日(木)～5月6日(月)	松田浩一神父
-----------------	--------

カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)

4月28日(日)～4月29日(月)	今泉健神父
キリストの呼びかけに従う	
11月9日(土)～11月10日(日)	今泉健神父
キリストはあなたを呼んでいる	

【一般のためのカルメルの霊性入門】

10月26日(土)～10月27日(日) (午後5時～午後4時) 松田浩一神父
「テレサ的カルメルの霊性 No.1」

奉献生活者の黙想(午後5時～午前9時)

8月2日(金)～8月11日(日)	松田浩一神父
8月17日(土)～8月26日(月)	今泉健神父
12月27日(金)～1月5日(日)	松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

3月28日(木)～3月31日(日) {講話なし、各食事つき}

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(火)～12月25日(水) {講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

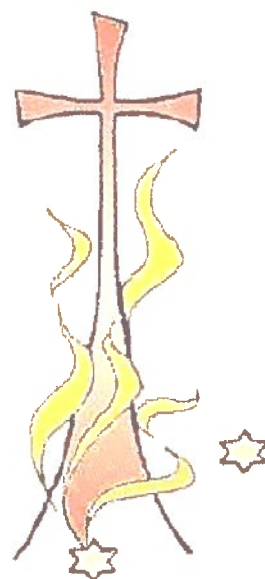
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月8日(金)～9日(土) |
| ③ | | 3月8日(金)～9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月6日(金)～7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月6日(金)～7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

…～都会の中の一日常修～（2013）…

(テーマ) 信仰年の課題 「イエス・キリストのセンスを磨く」 …2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一日常修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン(宣教カルメル修院)
第3回	3月23日(土)	テレーズの信仰	三上和久神父(三馬修道院)
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父(宇治修道院)
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父(宇治修道院)
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父(本部修道院)
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父(上野毛修道院)
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父(上野毛修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一日常修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2013年度名古屋聖書深読会

第1回 10月26日(土)

九里彰神父(本部修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名もご記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教え(み言葉)に関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆ 連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、
霊的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顕示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



霊性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル霊性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル霊性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート
サダナ瞑想
CWC (キリスト者婦人の集い)
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2013年予定

- K 2 4/6 (土) -4/12 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S 1 4/14 (日) -4/20 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- N 2 5/2 (木) -5/8 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 3 6/7 (金) -6/9 (日) 東京・小金井・聖霊会 (研修会 2泊3日)
- M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- T 1 7/22 (月) -7/28 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会
- N 3 9/28 (土) -10/4 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 10/12 (土) -10/18 (金) 東京・小金井・聖霊会
- T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

イエス様に祈りを学ぶ

真命山の靈性



祈りの集い（午前10時～午後3時）
年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ2,46 ヨハネ2,21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ1,14）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
 どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
 キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
 9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
 各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:

超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
 「古代と教父時代」(BC 5世紀—AD 6世紀)
 [古典古代]

4/06、4/20、5/11、5/18、5/25、6/01

[教父時代]

6/08、6/29、7/06、7/13、7/27、9/07、9/14

●ミサ

水曜日 17時10分—18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分—20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日はクルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分—12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日は休み。

・水曜日 18時—18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み

・「通う霊操」8月24日(土)—9月1日(日)18時—20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分—16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

4月6日、5月11日、6月8日、7月6日、8月10日、9月7日、10月12日、11月9日、12月7日

2014年1月11日、2月8日、3月1日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分—16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。

06月15日(土):10時—16日(日)14時(東村山)

09月28日(土):10時—29日(日)14時(東村山)

11月16日(土):10時—17日(日)14時(上石神井)

2014年

03月08日(土):10時—9日(日)14時(上石神井)

[関西]

10月5日(土)13時30分—6日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分—20時10分

・木曜日 18時—20時30分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
 3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

・4月27日(土)20時30分—5月4日(土)10時

6月21日(金)20時30分—23日(日)13時

8月10日(土)20時30分—17日(土)10時

9月20日(金)20時30分—24日(火)10時

11月1日(金)20時30分—11月4日(月)13時

[宝塚市]

・4月13日(土)13時30分—14日(日)16時

7月30日(火)17時45分—8月5日(月)15時

●アガベ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時—18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

4月20日(土)、6月30日(日)、10月20日(日)、2014年1月25日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座 2013年
日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

- 4/12 信仰の道— 人生の意義を問う
4/19 聖書の人間像— 人間の現状と使命
4/26 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること
5/10 理性と神認識の道— 世界内存在を通して
5/17 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味
5/24 歴史と信仰— 神との出会い
5/31 内なる神— その「似姿」としての人間
6/07 新約聖書の神理解— 主なる父
6/14 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
6/15-16●黙想会(東村山)
6/21
救い主の役割— 人類の待望
6/28 神の国— イエスの告げるメッセージ
7/05 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
7/12 イエスの譬話— 神の働きを語る
7/19
イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
7/26 イエスは誰か— イエスの自己理解
7/27 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)



リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座 2013年
日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

- [人生の基礎づけ]
4/16 人間の尊厳— 自律と自己超越
4/30 ○休み
5/07 人生の目標— 神の「似姿」としての真なる人間
5/21 人間以外のものの意義— 世界の使用と聖化
6/04 創造・歴史・救い— イエスという中心
6/15-16●黙想会(東村山)
[倫理的行為]
6/18 行為の規範— 人間らしさと神の呼びかけ
7/02 自己実現— 責任と自由
7/16 性格の形成— 自己受容と善への憧れ
7/27 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)
7/30 ○休み
8/06 人間の弱さ— 誘惑と罪
8/20 魂の癒し— 恩寵・心の入れ替え・ゆるし(上智大学内クルトゥルハイム2F)
8/24-9/1 ●通う霊操(18時～20時45分)

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)
Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年
4月13日（土）

講話 伊従信子 片山はるひ

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

召命黙想会

テーマ：聴く心ーキリストとともに働くー



5月3日(金)午後2時～5日(日)午後2時

指導：英 隆一郎神父（イエズス会）

対象：35歳までの独身女性

場所：汚れなきマリア修道会 町田修道院

(小田急線町田駅下車、バスで約15分)

締切日：4月20日(土)

定員：10名

参加費：15,000円(往復の交通費は各自でご負担下さい)

申込み・問い合わせ：お電話でお申込みください。

マリアの御心会 03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel：077-579-7580 Fax：077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
② 8月14日(水)～22日(木) ③ 9月27日(金)～10月5日(土)
④ 12月27日(金)～2014年1月4日(土)
- B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
② 4月5日(金)～7日(日) ③ 5月3日(金)～5日(日)
④ 6月14日(金)～16日(日) ⑤ 7月12日(金)～14日(日)
⑥ 11月1日(金)～3日(日) ⑦ 11月29日(金)～12月1日(日)
- C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)
5月26日(日)～6月3日(月) 北村 善朗 師(京都教区)
- ◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

主に選ばれる恵み わたしは主のはしたためです

2013年第一回 召命黙想会

日時： **5月18日(土) 15:00～**
19日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 神父(御受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000円

締切： 2013年5月12日(日)

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1
ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川
Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804
Email karainorind92@mbe.nifty.com

【一日静修へのおさそい】

テーマ：現代において神さまを信じるということ

指導：雨宮 泰紀神父（サレジオ修道会司祭・サレジオ学院幼稚園園長）

日時：5月25日（土）10：00～16：00 受付 9：30～

場所：コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

〒182-0034 調布市下石原3-55-1

対象：男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ

会費：2,000円（お弁当代を含む）

申込み：5月18日（土）まで。電話 [042-482-2012]

FAX [042-482-2163]

受付時間 午前9：00～午後6：00

定員：80名まで受け付けます。

主催：コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

*当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。北口を出て、線路沿いに西調布駅方面に歩く。立体交差の下をくぐり左折。踏切を渡って200m歩き、二つ目の信号の右手（鶴川街道沿い）マルガリタ幼稚園内。徒歩で20分。タクシーで5分。



サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門A	4/21(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※ Tel/fax 03-5802-3844
サダナII	4/25(木)17:30- 4/29(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教会 (東村山)	若山美知子※
ダイアリー	5/2(木)17:30- 5/6(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教会 (東村山)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日× 2=合計4日	5/11(土)9:30- 5/12(土)17:00 5/18(土)9:30- 5/19(土)17:00	Fr植栗	町田祈り・研修の家	若山美知子※
サダナI	5/30(木)17:30- 6/2(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720	申込み:Sr 比嘉
日帰り (注)	6/9(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
入門B	6/23(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
サダナI	7/12(金)17:30- 7/15(月)16:00	Fr ラフオント	女子御受難会修道院 (宝塚)	大倉本子 Tel:078-811-2706
サダナI	7/12(金)17:30- 7/15(日)昼食	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※
霊操とII	8/17(土)17: 30-8/26(月)朝	Fr植栗	広島市・西日本霊性センター(長束黙想の家) 申込み: 西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036	

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り=サダナIを終えた方

*サダナI=体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナII= Iをいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

4月9日（火）『完徳の道』第30～第31章

6月11日、7月9日、9月10日、11月12日、12月11日



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

TEL：03-3351-7121（受付代表）

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

4月10日（水）『靈魂の城』第4の住居の第3章

6月12日、7月10日、9月11日、11月13日、12月12日

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

少しの時間、**新刊案内**
いのりのみ言葉に
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
〔「はじめに」より〕

ISBN978-4-88216-339-8 C0195

268 281頁 定価630円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール/J. ギシャル著

伊従信子訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195

246 207頁 定価525円(税込)

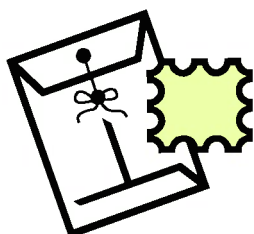
聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先



霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



『霊性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）

この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』 お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

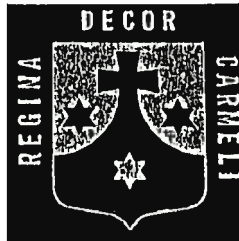


編集後記

教皇ベネディクト 16 世の突然の退位から、二週間後、3 月 13 日にアルゼンチンのベルゴリオ枢機卿が、新しい教皇フランシスコとして選出された。ブエノスアイレスの大司教、イエズス会士…。中南米、西半球からは、初めての教皇ということであるが、長い間、イタリア、スペイン、フランスと西欧出身の教皇が続いてきたカトリックの歴史が大きく変わってきたことを象徴している。

ちなみに政治の世界では、アメリカ合衆国に、黒人のオバマ大統領が登場している。やがてカトリック教会でも、アジア・アフリカから教皇が選ばれる日が来ることだろう。そして、その時こそ、キリスト教は西欧中心のキリスト教から脱け出て、真に普遍的（カトリック）宗教になったとすることができるのではないだろうか。

（P. 九里）



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「5月号」製本日

[4月30日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171